

CONTENTS

12月定例会

おおぞら
議会だより

網走厚生病院脳神経外科整備

事業に115万円追加補正

議員4名が一般質問

① 後藤議員 ② 上地議員

③ 三條議員 ④ 齋藤議員

各委員会において

行政視察を行いました

12

4

2



1月18日、道内7空港の一括民営化スタートを記念した式典が女満別空港で行われ、テープカットで門出を祝い、民営化を担う北海道エアポート(株)のロゴマークとキャッチフレーズも発表されました。



No.55

OZORA
GIKAI DAYORI

発行日 令和2年(2020年)2月28日

一般会計5,418万円追加補正

総額89億9,195万円に

令和元年 12月定例会 12月17日・18日

大空町議会 12月定例会は、令和元年度一般会計補正予算などの補正議案6件、条例制定議案など15件、議会側議案2件を審議可決しました。

主な歳出予算では、網走厚生病院脳神経外科整備事業に115万円、農業水路等長寿命化・防災減災事業に1,000万円を追加補正しました。

管理施設の名称	指定管理者	指定管理（委託）期間
東藻琴診療所	医療法人社団双心会	令和2年4月1日から 令和7年3月31日まで（5年間）
東藻琴農村環境改善センター・東藻琴公民館	フジケンビルサービス株式会社	令和2年4月1日から 令和5年3月31日まで（3年間）



〈東藻琴診療所〉



〈東藻琴農村環境改善センター〉

指定管理者の指定
町民の皆さんが利用される町内の公共施設については、条例に基づき、町民サービスや利便性の向上を目的に、指定管理者に期間を

定めその管理運営を委託しています。

次の2施設が今年度の委託期間が満了となることから、新たな委託期間と指定管理者の提案がされ、可決しました。

大空町印鑑登録条例の一部改正、大空町特別職の給与に関する条例の一部改正、大空町職員給与に関する条例の一部改正、大空町会計年度任用職員給与及び費用弁償に関する条例の施行に伴う関係条例の整備に関する条例制定、大空町農業委員会委員の定数を定める条例の一部改正、大空町簡易水道事業給水条例の一部改正、大空町下水道事業条例の一部を改正する条例の一部改正、大空町個別排水処理施設管理条例の一部を改正する条例の一部改正について、可決しました。

過疎計画の一部変更
大空町過疎地域自立促進市町村計画に、農業水路等長寿命化・防災減災事業、農地耕作条件改善事業、地域情報通信基盤整備推進事業、網走厚生病院脳神経外科整備事業が追加変更され、可決しました。

過疎計画の一部変更

大空町印鑑登録条例の一部改正、大空町特別職の給与に関する条例の一部改正、大空町職員給与に関する条例の一部改正、大空町会計年度任用職員給与及び費用弁償に関する条例の施行に伴う関係条例の整備に関する条例制定、大空町農業委員会委員の定数を定める条例の一部改正、大空町簡易水道事業給水条例の一部改正、大空町下水道事業条例の一部を改正する条例の一部改正、大空町個別排水処理施設管理条例の一部を改正する条例の一部改正について、可決しました。

条例の制定・一部改正

課長 複雑なシステムではないかと考えています。

Q レジオネラ菌が検出された「芝桜の湯」の浴槽循環ライン薬剤洗浄は、どの程度の期間を要するのか。

藻琴山温泉 芝桜公園管理運営費 土地議員

福祉課 手すりの設置、段差の解消、滑り止め床材への変更等の改修が多くみられます。

Q 傾向として、どのような住宅改修が行われているのか。

介護予防住宅改修費 三條議員
事務と受付を行う常勤職員1名、夜間管理のパート職員2名が雇用されています。

Q 東藻琴農村環境改善センターの施設管理に、町民は何名雇用されているのか。

◎主な質疑 指定管理者の指定

補正予算の内容		
会計	補正予算額	補正後の総額
一般会計	5,418万円	89億9,195万円
国民健康保険事業特別会計	37万円	12億7,177万円
介護保険事業勘定特別会計	23万円	8億2,259万円
介護サービス事業勘定特別会計	6万円	610万円
簡易水道事業特別会計	41万円	2億7,362万円
下水道事業特別会計	51万円	3億3,498万円

<一般会計>

【歳出】

事業内容	補正額
網走厚生病院脳神経外科整備事業	115万円
農業水路等長寿命化・防災減災事業	1,000万円
令和元年台風19号災害義援金	100万円
体育文化振興補助金	79万円
ファミリーサポート事業利用補助金	5万円
メルヘン公園管理費	62万円
ひがしもこと乳酪館管理費	105万円
藻琴山温泉芝桜公園管理運営費	52万円
その他事業	3,900万円

【歳入】

事業内容	補正額
土地売却	54万円
一般寄付金	3,055万円
その他	2,309万円

令和元年度一般会計補正予算について、12月定例会で審議を行いました。
歳入では、ふるさと納税に伴う一般寄附金に3,055万円。歳出では、網走厚生病院に脳神経外科の開設に伴う整備事業として115万円、農業水路等長寿命化・防災減災事業に1,000万円、メルヘン公園管理費に62万円、ひがしもこと乳酪館管理費に105万円、

円、藻琴山温泉芝桜公園管理運営費に52万円、町立学校の児童生徒等の全道・全国大会への出場増加に伴う体育文化振興補助金に79万円、ファミリーサポート事業利用補助金に5万円、台風19号で災害に見舞われた方への義援金として100万円などを増額補正し、総額は89億9,195万円となりました。

体育文化振興補助金



町内の小中高校で、12月以降の全道大会に出場することが決定している競技や、出場が見込まれる競技があることから、児童生徒の体育及び文化活動の振興のため、不足する予算が増額されました。

脳神経外科の開設



1月上旬、網走厚生病院内に脳神経外科が開設され、外来診療が開始されています。今後は準備が整い次第、救急や手術などによる入院患者の皆さんの受入も開始される予定です。

水源の広域連携の可能性は？

町長 ▶ その可能性をしっかりと探っていきたい



ごとうしのぶ 後藤 忍 議員

大空町のシンボル藻琴山。そこから湧き出る美味しい水を町民皆で分かち合える日を待ち望みます。



有収水量とは？

家庭などで使用され、水道料金収入の対象となった水量のことです。

問 新規水源調査の現在までの取り組みについて伺いたい。

建設課 参事 今後の見通しを、国立社会保障人口問題研究所の推計値から平成30年度と令和10年度を比較（表1）すると、町全体の人口で83.3%、有収水量では79.6%まで減少すると推計するところです。

新規水源の湧水箇所は民有地となっております、現

在は、使用条件などについて交渉をしていますが、難しい側面もあります。調査期間内で最小の湧水量は1日当たり2.143m³で、調査当初に両地区で必要とする水量を1日当たり2,500m³と推計していましたが、今後の人口減少を見込むと1,100m³で、十分足りるのではないかと考えるところです。

町長 経営戦略で、コスト軽減を図るために、広域連携の可能性についても検討することが

に、広域連携の可能性について伺いたい。

問 水道事業については、安全・安心な水の確保と安定供給のために、町では管路整備や維持管理を行っているが、女満別地区においては地下水源の水質が悪く、町民からは水質改善の要望が高まっている。

女満別地区と東藻琴地区の給水人口及び有収水量の現況と今後の見通しについて伺いたい。

町長 平成26年度から調査を開始しています。26年度は湧水箇所の存在を調査し、3カ所の湧水を確認しました。27年度は可能性が高いと思われる1箇所について湧水量の観測を開始し、28年度は地層構造を把握するための電気探査を実施、29年度はボーリングによる地層分布の確認と取水施設の構造検討を実施し、30年度は将来の水需要予測などを調査しました。

調査期間内で最小の湧水量は1日当たり2.143m³で、調査当初に両地区で必要とする水量を1日当たり2,500m³と推計していましたが、今後の人口減少を見込むと1,100m³で、十分足りるのではないかと考えるところです。



水質改善の要望が高まる水道

町長 新しい水源を求め、これまで色々と取り組んできたところで

に、広域連携の可能性について伺いたい。

問 町民の皆さんから早くおいしい水を飲みたいという声を聞くが、新規水源の可能性と並行し、他市町との広域連携も模索していくことが必要ではないか。

求められていました。広域連携の場合、可能な連絡管の距離をおおよそ10kmと考えています。近隣の市町では美幌町が13km程度、清水町が14km程度、網走市は8km程度となっております。連絡管の距離から考えますと、広域連携の相手として網走市が有力になります。具体的な交渉や協議にまでは至っていない状況です。

(表1) 給水人口及び有収水量の現状と見通し

給水人口	区分	大空町全体	女満別地区	東藻琴地区
	平成30年度	6,887人	4,695人	2,192人
令和10年度	5,737人	3,937人	1,800人	

有収水量	区分	大空町全体	女満別地区	東藻琴地区
	平成30年度	898,224m ³	517,122m ³	381,102m ³
令和10年度	715,400m ³	405,880m ³	309,520m ³	

が、現時点で最善な方法は何か、立ち止まって考えることも必要だと思っています。広域連携については、事務段階での調査や、必要に応じてトップ同士での懇談なども含め、その可能性をしっかりと探っていきたいと思っています。

我が町政を問う 一般質問

12月定例会では、4人の議員が一般質問を行い、活発な議論を展開しました。なお、全文記録（議事録）は、図書館にて閲覧または町議会ホームページに掲載していますので、そちらをご覧ください。

【後藤 忍】

1. 水道事業について

【上地 史隆】

1. コミュニティ・スクールの導入について
2. プラスチック削減の取り組みについて

【三條 幸夫】

1. 誘致企業の現状について
2. 公共施設の管理状況について
3. 高齢ドライバーへの事故防止対策について

【齊藤 宏司】

1. 高齢者に対する生活支援事業について



議会インターネット中継・録画映像のお知らせ

議会の情報公開を進めるため、審議状況をインターネット上でライブ映像、録画映像を配信しています。

傍聴に行けない方など、ご家庭のパソコン、スマートフォン、タブレット等でご覧いただけます。

コミュニティ・スクールの導入は

教育長 ▼ 両地区で来年度から導入する



うえち ふみたか 議員
上地史隆

湖畔の清掃活動に毎年参加しています。今後、他の清掃活動にも積極的に参加していきたいと思っています。

問 文部科学省の第3期教育振興基本計画では、令和4年度までに全ての公立学校でコミュニティ・スクールの導入を目指している。

警長 大空町においても、令和2年度からの導入を考慮しており、町内各中学校と協議を進めるとともに、大空町PTA連合会主催の研修会で専門家によるコミュニティづくりに関する講話を行っています。

これまでの協議を踏まえ、大空町のコミュニティ・スクールは、小中学校合同で女満別地区、東藻琴地区それぞれに学校運営協議会を設置する方向としており、小中学校の連携を意識した体制や

仕組みとしていきたいと考えています。

問 学校運営協議会は、コミュニティ・スクールの核となるが、どのような方を構成員として想定しているのか。



昨年11月23日に開催された「大空町PTA連合会研修会」

警長 学校長、教職員をはじめ、学校評議員、保護者や地域住民、学識経験者等、幅広い分野から参画を得たいと考えており、全体で15名程度の委員構成にしたいと想定しています。

地域住民の中からは、自治会や女性団体、青年団体、企業、民生委員、児童委員等、あらゆる方に参画いただき、多様な立場から建設的な意見を伺える組織にしたいと思っています。

問 実際に地域の活性化に繋がった事例などもあり、地域住民にも制度を知っていただくため、周知をしっかりと行

つていただきたい。また、将来的には高校においても、実践することを検討いただきたいと思います。

教育長 子どもたちの生きる力というものは、多様な人々、地域社会とのつながりの中で心豊かに、たくましく成長してくれるものだと思います。地域住民の方々へも町広報などを通じて制度の紹介をさせていただき、より多くの方に関心を持っていただけるよう努力してまいりたいと考えています。

コミュニティ・スクールとは？

学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。

<学校運営協議会の主な役割>

- ・校長が作成する学校運営の基本方針を承認する。
- ・学校運営に関する意見を教育委員会または校長に述べるができる。
- ・教職員の任用に関して、教育委員会に意見を述べるができる。

プラスチックごみ削減の取り組みは

町長 ▶ 分別とリサイクルを徹底していきたい

住民課長 平成30年度の資源物総回収量は628トンで、うちプラスチック系が87.5トンとなつています。(表1)

町長 プラスチック製品の処理は、容器包装リサイクル法に基づき、資源物としてリサイクル化に努めています。このようにリサイクルが進められており、町民皆様の理解と協力に感謝します。

問 プラスチック製品は、日常生活のあらゆる場面で利用されているが、不適切に処分された一部のプラスチックごみが海に流れ、生き物などの生態系に悪影響を及ぼしており、町内の河川や湖に住む生き物にも悪影響を与えているのではないかと心配する。大空町のプラスチック製品の処理とリサイクルの現状を伺いたい。

(表1) 平成30年度資源物回収量

区分	総回収量	うち プラスチック系			
		ペットボトル	その他プラ	発泡トレイ	計
重量	628 ^ト	38 ^ト	47 ^ト	2.5 ^ト	87.5 ^ト
割合	100%	6.1%	7.5%	0.4%	14.0%

体中24位の順位となっています。



リサイクルセンターに出されたプラスチックごみ

町長 これまで町では、プラスチックごみが環境にどのような影響を及ぼすかということには、余り触れてこなかったと思います。

問 網走川流域の会がプラスチック調査や環境問題に関する講演を行ったこともありますが、プラスチックの環境問題や各種団体の取り組みについて周知がされていないように思うが。

また、網走川流域の会のほかにも、北海道一級河川環境保全連絡協議会、網走湖環境保全対策推進協議会、藻琴川環境保全対策連絡協議会といった広域の組織も水質調査や清掃活動、自然体験学習、植樹などを行っています。いろいろな団体が活動



網走川流域の会の清掃活動 (昨年6月23日)

していることを周知していくことも、町民皆さんに対する意識啓発という観点から重要なことと考えています。

問 レジ袋の削減に向けたマイバッグの使用や、ペットボトルではなくマイボトルを利用するなど、小さな取り組みを積み重ねていくことが大切だと考えている。プラスチックごみの削減に向けた取り組みを進めている民間事業所も出てきており、大空町も何らかの行動を起こさなくてはならないと思うが。

町長 まずは分別とリサイクルの徹底をさらに高め、併せて、プラスチック製品の使用低減を図るためのマイバッグや、マイボトルの奨励に対する啓発活動を行いたいと思います。また、清掃活動に参加いただくことで、ごみを出さない、ポイ捨てしないという意識改革にもつながっていくと思いますので、町としても呼びかけしていきます。

マイクロプラスチックとは？

環境中に出たプラスチックは、自然分解されず、雨に流され最終的に海へ流れ着きます。紫外線や波の影響で劣化し、5mm以下のサイズになったプラスチックを「マイクロプラスチック」といいます。網走川流域の会が昨年7月19日、豊郷橋付近の網走川で調査を行い、1㎡あたり平均0.27個、0.035mgのマイクロプラスチックが検出されましたが、国内平均を下回る結果となっています。

誘致企業等の現状と課題は

町長▶支援策を紹介し、協議を継続



さんじょうゆき お 三條幸夫 議員

最近、質問者の顔写真をイラストで掲載される広報を目にするようになってきました。掲載される私としては代り映えのしない写真を掲載するより、たまに似顔絵もありかなと思っています。

問 誘致企業の現状について伺う。

町長 町内には、既に営業を取り止めている、また、建設途中で中止となっている企業の建物、土地が現存するが、町長は、これらの企業や建物所有者に、何らかの要請をされたことがあるのか。

また、平成19年に建設途中で中止になっている豊里地区の医薬関係の試験研究施設は、他の用途との活用も含め、さまざまな支援策も紹介しながら協議を行っています。

問 フタバ食品は、土地を将来利用したいから残しているのか。

また、医薬関係施設については、知り得る範囲で、地域の皆さんに今の状況をお知らせすることも必要ではないか。

町長 旧女満別食品は、再度操業する予定はなく、他で活用するのであれば、用地売却に協力していただけると伺っています。



建設が途中で中止の医薬関係の試験研究施設

建替え、改修など検討すべき施設は

町長▶老人福祉センターは解体と位置づけ

問 町や教育委員会が管理する施設で、建替えや改修、用途変更、廃止等を検討しなければならぬ施設があると思うが、それらの施設の現状と今後の課題について伺う。

町長 公共施設の中でも女満別老人福祉センターは、施設の老朽化に伴い、公共施設等総合管理計画では、解体する建物に位置づけています。

新たに老人福祉センターを建設する計画はありませんが、令和5年度供用開始予定の湖畔地区の河川防災ステーションに、現在の老人福祉センター大広間に相当する規模の多目的ホールや調理室が整備される予定で、この施設を活用することで、機能の多くは継承できるものと考えています。



解体と位置づけの「女満別老人福祉センター」

教育長 教育委員会が所管する施設では、女満別幼稚園、保育園を含む東藻琴幼稚園、豊住保育園の3園が来年度以降の認定こども園への移行により、順次使用しない施設となり、解体も含めて考えていく必要があります。

女満別伝承館は、現状の施設機能を維持します。旧豊住小学校の校舎、体育館は、スポーツ合宿誘致事業等の取り組みを中心に活用している現状です。

を踏まえ、社会教育施設として位置づけすべく、現在必要な準備を進めています。

問 高齢者が利用する施設を湖畔地区に移すというのは、乱暴な気がする。高齢者に関する施設はこの市町村も集約化されており、再考すべきだと思うが。

町長 乳幼児健診などは多くの方が車で来られているため、湖畔で実施することも可能という考え方であり、高齢者の方々が利用している実態の全てを湖畔にということではありません。

福祉関係の施設が集約していることは望ましいと思いますが、保健福祉総合センター的なもので建設するという構想にはなっておりません。さまざまな施設の集約などについては、具体的な施設ごとに議論をすすめる中で進めます。

問 町が管理する現在使用されていない建物について、現状と今

町長 総合計画では解体時期を明示していませんが、地域の方々に説明した経過はありません。今後、経緯を示しながら、理解を得られるように努めます。

後の考え方について伺う。女満別農業研修センターなど両地区には、すでに役目を終えている施設が現存していると思うが。

町長 女満別農業研修センターは、平成12年から利用を休止していますが、補助金を活用して建設したため、解体した場合に補助金の一部返還が生じることから、時期を迷っているところです。

なお、昭和浄水場の横にある倉庫として利用している離農跡地の住宅や、東藻琴農業技術センターについては、将来的には解体します。

問 女満別農業研修センターの解体時期は、地域住民の方に予定だけでも伝えることが必要ではないか。

町長 総合計画では解体時期を明示していませんが、地域の方々に説明した経過はありません。今後、経緯を示しながら、理解を得られるように努めます。

高齢ドライバーの自動車事故防止装置に一部補助を

町長▶現時点では免許の返納が優先と考えている

問 高齢ドライバーへの事故防止対策について伺う。近年、高齢ドライバーの操作ミスによる交通事故が多発しているが、悲惨な事故を少しでも未然に防止するため、町においても、アクセル踏み間違い防止装置等の設置に対し、支援策を講ずることも必要だと思いが、支援の考えはないか。

町長 最近、高齢者の方の運転する車の事故の報道が多くなっているように思います。ブレーキとアクセルの踏み間違いによる事故は、全体の事故に対する比率として、75歳未満の方々は1%ですが、75歳以上の方に限ると5.4%と高くなっています。

各自自治体が、いろいろな補助制度を創設する動きがあることも承知しており、内部でも議論しましたが、まずは免許の返納を促すことに力を注ぐべきであり、現段階では、装置の設置に対しての支援を決定する判断には至りませんでした。

問 網走管内でも65歳以上の方を対象として、3万円を限度に装置の取付け費用の一部を助成する自治体があるが、補助制度は、個人に装置を設置していただくための呼び水になると私は思っている。

町長 装置を設置することを否定しているわけではなく、できれば付けてもらいたいと考えていますが、今の時点では社会的に免許返納の議論が進んでおり、優先順位としては高いと判断しました。

問 車以外に移動手段のない高



1月28日に行われた「交通事故防止町民集会」

町長 この問題については今後も議論を重ね、良い方向が出るように努めます。

親しまれる議会だよりを目指して ～議会広報モニター連絡会議を開催～



議会だよりにより町民の声を反映するため導入している、議会広報モニター連絡会議を令和元年11月21日に開催し、議会広報活動へのご意見をいただきました。

主なご意見は次のとおりです。



- 大空町の位置関係を多くの人に知ってもらうために、表紙下段の表示を「大空町議会だより」から「北海道大空町議会」に変更したことは良いことだと思います。
- 過去のものを見比べると、格段に見やすくなったと感じています。
- 文面と写真の配置が一致していない部分があるので、合わせた方が良いのではないかと思います。
- 色合いは見やすいと感じていますが、文字の大きさ、白抜き文字の使い方、文字の色など、更に見やすくする工夫をお願いします。
- ホームページから過去の議会広報を閲覧する際に利用してほしいということでQRコードを表示していますが、QRコードに「バックナンバーはこちらから」と追記した方が、より親切かと感じます。

お願い

議長宛ての案内文書については、事前に公務などの日程調整が必要になるため、必ず議会事務局まで「持参」または「郵送」でのお届をお願いします。

送り先：
〒099-2392
大空町女満別西3条4丁目1番1号
大空町議会議長
(大空町議会事務局) 宛

請願陳情をされる方へ(書式)例

(表紙)	(内容)
○○○○○○○○○○に 関する 請 願 書 (陳情書) 紹介議員○○○○○◎	○○○○○○○○○○に 関する請願(陳情) 要旨 ○○○○○○ 理由 ○○○○○○ ○○○○○○○ 令和 年 月 日 大空町議会議長 様 大空町○○○○○ ○○○○○◎

※請願には紹介議員が必要ですが、陳情に紹介議員は不要です。

【お問い合わせ先】
大空町議会事務局
0152-74-2111 (内線266)

議会の傍聴はお気軽に!

- ◆定例町議会は、年4回(3月・6月・9月・12月)開かれます。また、臨時町議会は必要に応じて随時開かれますので、お気軽に傍聴においでください。
- ◆詳しくは、議会事務局までお問い合わせください。

3月定例会は、
3月5日(木)から
開かれる予定です。

高齢者に対する支援は

町長 ▼ タクシー券の利用と自主返納を促す



さいとうひろし 齋藤宏司 議員

今回の一般質問は、高齢者の方からの声です。今年も災害が無く、安心して暮らせる大空町であって欲しいと願います。

問 全国的に高齢者による交通事故が社会問題化しているが、背景には高齢者のみの世帯が増え、通院や買い物、送迎などで自家用車を運転せざるを得ない実情がある。

町長 タクシー券事業は75歳以上の方、各種障害のある方を対象に、福祉タクシー券は年間1人9枚(非課税世帯18枚)、外出支援タクシー券は年

間1人7枚(非課税世帯14枚)を交付しています。なお、外出支援タクシー券については、本年4月より、1枚当たりの金額を5千円から3千円に、交付枚数を4枚から7枚に増やして利便性の向上を図り、また、町外へ移動する際にも使用可能としたところです。(利用状況、交付枚数等は下表のとおり)

町長 タクシー券の交付を受けても利用しない方がいる一方で、足りないという声を聞くが、平成30年度に実施したアンケート結

果では、利用していない理由として、自分で運転ができるからという方が52%、家族に送迎してもらっているからという方が23%でした。しかし、万が一のことも考えて券の交付は受けておこうという方々がおり、利用率

は100%にはならないものと思っています。交付枚数が足りないというお話もありますが、家族内での融通や1枚の券を複数人で利用することも可能であることを、交付事務の中で伝えていきたいと思っています。



「運転に不安を感じたらまずは相談」と呼び掛けるポスター、「#8080」をダイヤルすると各警察の相談窓口につながります。

問 自動車運転免許証の自主返納に対する支援策は考えているか。

町長 大空町内では、平成30年に5人、今年7月末時点で2人が自主返納しています。本年度から運転免許証を自主返納した際、希望する方は運転経歴証明書(交付を受けることができ、その手数料を町が助成する制度)を設けています。

福祉タクシー券利用状況

区分	対象者数	交付者数	交付率	交付枚数	利用枚数	利用率
平成30年度実績	1,414人	957人	67.7%	12,915枚	6,165枚	47.7%
令和元年度実績	1,361人	955人	70.2%	12,933万	3,884枚	30.0%

外出支援タクシー券利用状況

区分	対象者数	交付者数	交付率	交付枚数	利用枚数	利用率
平成30年度実績	1,414人	949人	67.1%	5,684枚	1,480枚	26.0%
令和元年度実績	1,361人	955人	70.2%	10,059枚	1,347枚	13.4%

(令和元年度実績は、11月末現在)

町長 政策を多数用意して選択していただくという考え方もありますが、まずは自主返納を促す政策展開に取り組みたいと考えています。

う方向で支援策を検討してほしい。

総務厚生 常任委員会行政視察報告

委員長 沢出 好雄

～ふるさと納税による移住・定住 対策、特定健診の受診率向上に向けた取り組みなど先進的取り組みを視察～
10月2日～4日の日程で津別町・上士幌町・本別町・上富良野町・東神楽町を訪問し、視察しました。



ふるさと納税を有効活用

上士幌町は、ふるさと納税による活用事業として、「子育て少子化対策夢基金」により24事業が実施されており、子供園児数や18歳以下の人口増加につながっています。

また、高齢者のため「生涯活躍生がい基金」により、健康ポイント事業など10事業のほか、指定寄附金の充当事業として、一般行政事業や起業支援など60事業にも活用されており、これらの活用事業を決定するシステムとして外部選考委員会があり、各界が町を挙げてPRに努めており、広範囲にわたり基金の有効活用が図られていました。

なお、生活手段の向上や事故防止など、交通インフラの確保に向けた自動運転バスの試験走行は、大空町においても注目すべき事案であり、今後も情報収集が必要と感じたところです。



上士幌町からの概要説明

④ 上士幌町

最終処分場の建設に着手

津別町の一般廃棄物最終処理場の整備においては、クリアすべき事項が多岐にわたり、計画から着工までに4年間を要しており、大空町においてもスケジュールに余裕をもって取り組むべきと感じたところです。

また、堆肥製造施設は、計画を上回る健全経営がなされており、広域処理されている大空町分の「生ごみ処理」についても、問題ないことを確認しました。



津別町からの概要説明

① 津別町一般廃棄物処理場・堆肥製造施設

福祉でまちづくり

本別町は、平成8年の地域包括医療推進構想の策定に基づき「太陽の丘」をオープン、総合ケアセンターの機能として、行政サイドの福祉部門はもとより社会福祉協議会の事務部門、ヘルパーステーション、ボランティアセンターがワンフロアにあり、相談からサービスの提供まで一体的かつ効率的に対応されていました。

さらに、町民主導による条例の制定を行い、町、介護サービス事業者、町民の責務を明確にし、「健康長寿のまちづくり会議」で意見の反映を図るなど、先進的な取り組みをしており、大変勉強になりました。



本別町からの概要説明

② 本別町

とことん住みやすい町を追及

東神楽町は、コンパクトシティの実現で、この40年間人口が増加していますが、退職者の増加などで高齢化が進み、現在がピークと思われる、新規住民を受け入れる余力がなく、人口減少による空き家活用の対策が、今後の課題となっているとのことでした。

好循環サイクルの方策として「リフォーム補助金」、「解体・新築支援」、「住宅流通の支援」の3本柱からなる補助支援制度による、「未来につながる住まいの輪」の展開を図ることとしており、大変参考となりました。



東神楽町からの概要説明

③ 東神楽町

「受けて良かった」納得できる健診へ

上富良野町の「どぶろく特区」による地域活性化の取り組みは、条件として農業者であること、自ら生産した原料で製造すること、製造免許を自らの責任で取得することなど、とてもハードルが高いと感じたところです。

また、特定健診の受診率向上の取り組みは、従来の一方的な受診勧奨から予防への転換により、「住民が受けて良かったと納得できる健診」へと移行し、地区担当保健師や管理栄養士が全受診者の結果確認と対策の事前準備のもと、指導の方向性を決定し保健指導を行っています。

住民自身が身体の状態を知るための受診勧奨を行い、未受診者全員と会うことを目標とするなど、住民に寄り添った取り組みを行っており、個別の健診結果説明会の開催など、常に住民との関わりを重視している姿勢が確認されました。



上富良野町からの概要説明

⑤ 上富良野町

なお、保健福祉センターが整備されており、乳幼児から高齢者、障がい者まで、世代を超えて交流するスペースがあり、福祉関係部門がワンフロアで活動されているなど、今後の福祉施策に活かすべき、先進的な事例であると感じました。

議会運営 委員会行政視察報告

委員長 齋藤 宏司

～議会改革に向けた取り組み、河川防災ステーションの管理運営など先進的取り組みを視察～
10月9日～11日の日程 で伊達市・福島町・岩見沢市を訪問し、視察しました。



水防活動の拠点施設整備

過去に幾度となく石狩川や旧美唄川が氾濫し、堤防の決壊による内水被害を教訓に、洪水時の水防活動や地震、その他の災害時に迅速な応急活動と復旧活動を行う拠点施設として、平成20年3月に「岩見沢市北村地区河川防災ステーション」が整備されています。

備蓄資機材は、水防活動に必要となる土砂やブロック、水防用樹木などが常備され、また、河川の流域が広範囲であることからヘリポートも整備された施設となっています。

施設の管理運営や平常時の利活用について説明を受け、今後の大空地区河川防災ステーションの管理運営で、参考にしたいと思います。



岩見沢河川事務所、岩見沢市からの概要説明

③ 北村地区河川防災ステーション

一般質問への答弁に対する追跡調査の導入経緯と現状

議会改革に向けた取り組み等をテーマに、一般質問に対する答弁事項の進捗状況調査（追跡調査）に主眼を置き、福島町議会と伊達市議会を訪問し、制度導入に至った経緯と現状などについて説明を受けました。

両議会ともに平成26年に調査実施要綱を策定し、本会議等（伊達市は一般質問のみ）での議員の質問に対し、首長等が「検討する」などの表現による答弁を行った事項を、追跡調査の対象としています。

追跡調査の実施により、首長等は「検討する」などの答弁から少し踏み込んだ判断で答弁するようになり、課長職においても、その質問内容の意図やポイントを理解しようと心掛けるようになったとのことでした。

また、議員側としても自らの質問に対する行政側の進捗状況が確認でき、次回の一般質問に向けた検討もできることから、メリットはあったということです。

しかし、両議会とも、今後は各議員からの追跡調査の申し出が想定される状況にはないとのことであり、さらには、道内の他市町村においても制度の導入に追随する事例は見受けられず、制度が十分に機能していくのか疑問に感じたところです。

このようなことから、大空町における一般質問に対する追跡調査の実施については、今後の行政側の対応や他市町村の取り組みの推移を、現段階では見守ることにしました。



伊達市議会議長からの概要説明

① 伊達市議会

鹿追町議会へも行政視察

「まちなか会議」による町民との意見交換の取り組みについて、11月28日に視察しました。



鹿追町議会からの概要説明

鹿追町議会は議員定数が11名、議長を除く10で広報広聴常任委員会を構成し、広報部会と広聴部会の2部会制で活動をしています。

広報部会では、議会広報誌を定例会の翌月4回と翌々月にミニ版の広報誌を4回発行し、情報発信に取り組んでいます。

また、町政全般にわたる議会報告会や各種団体、グループとの懇談・交流を「まちなか会議」として条例化し、議会活動への理解や直接議員に意見が言える機会として開催されており、大空町議会の取り組みにおいて、今後検討が必要と感じたところです。

鹿追町議会



福島町議会議長からの概要説明

② 福島町議会

産業建設文教常任委員会行政視察報告

委員長 原本 哲己

～農工商の調和のまちづくり、ICT を活用した教育情報化、スマート農業の現状など先進的取組みを視察～
11月12日～15日の日程で栃木県芳賀町・茨城県美浦村・株式会社クボタ筑波工場を訪問し、視察しました。



自動運転トラクターの開発

株式会社クボタ筑波工場は、茨城県つくばみらい市にある従業員約2,000人の研究・開発部門を持つ農業機械生産工場です。

ここでは最近のスマート農業の現状、特に自動運転トラクター等の現状と取り組みについて、視察研修を行いました。

平成30年に「下町ロケット」で放映された自動運転トラクター（改良版）の実演を見学し、その後、開発・研究者と質問を交えながら懇談しました。

現在、自動運転トラクターは水田を中心に各メーカー合わせて数十台が全国で実働していますが、北海道ではまだ一部地域での実証実験段階で、無人ロボットトラクターが実用化されるまでには、数年掛かる旨の説明を受けました。

また、最近のGPS技術・関連作業機についても説明を受け、最新の技術を確認しました。



自動運転トラクターの実演見学

③ 株式会社クボタ筑波工場

農工商の調和のまちづくり

芳賀町は、栃木県の南東部に位置し、人口は約16,000人で県内の代表的な米どころ、日本梨の産地であり、多様な都市近郊型農業が営まれていました。

大規模な工業団地を造成し、本田技研技術研究所をはじめ、約100社の企業が立地する、宇都宮市を囲む衛星都市のひとつとしてまちづくりが進められていました。

工業団地の造成・農業基盤整備などにより、着実な財源確保に努め、自主財源比率71.8%で普通交付税の不交付団体となっています。

人口減少・高齢化の進展等、大空町と同じ問題を抱えていることにも共感を覚えました。

未来へつなげるための「農工商調和のまちづくり」について話し合いをさせていただき、大変参考となりました。



芳賀町からの概要説明

① 栃木県芳賀町（はがまち）

稲城市議会へも表敬訪問しました



稲城市議会議事堂にて



稲城市立中央図書館



いなぎ発信基地ペアテラス

11月15日、稲城市議会に表敬訪問を行いました。渡辺力稲城市議会議長から歓迎のご挨拶をいただいた後、稲城市自慢の図書館、農産物直売所ほのか、いなぎ発信基地ペアテラスなどを訪問し、施設を見学しました。

ICTを活用した学習活動

美浦村は茨城県南部、霞ヶ浦の南西に位置し、純農村の魅力を持続しながら企業誘致などに取り組み、首都近郊都市として躍進してきた人口約15,000人の村です。

平成23年度、小学校4年生以上の教室に電子黒板とタブレットパソコンを導入し、ICT（情報通信技術）を活用した学習活動の取り組みが拡大されています。

平成27年には小中学校の普通教室に電子黒板、書画カメラ、約3人に1台のタブレットパソコンが整備され、児童・生徒の学習意欲・学力向上に役立てていることが実感できました。

教育委員会では「ノーテレビ・ノーゲーム運動」を推進し、子どもの社会力を育てることに力を注いでいる旨の説明も受けました。

大空町でも近年、ICTの活用に取り組んでおり、今後も推進が必要と感じたところです。



美浦村教育委員会からの概要説明

② 茨城県美浦村（みほむら）

Voice 声 町民の



さらに魅力ある町へ

むら た ま さ ひ こ
村 田 将 彦 さん
(女満別町農協青年部長)

現在、当農協青年部では部員数の減少という問題を抱えています。私たち役員も新入部員の勧誘を行っているのですが、そもそも新しい人がなかなかいないというのが現状です。

町では担い手対策の婚活事業、高速ネット回線未整備地域への光回線設置等、若者の人材確保に向けたさまざまな事業を展開していますが、さらに生活の利便性を高めることによって、新たな人材を呼び

込み、町に定着させることを目標に取り組んでいた
だきたいと思います。

私たち青年部としても、魅力ある農業へ向けた研
修や毎年開催している収穫感謝祭、そして女満別幼
稚園での食育等を通して、農業のPRやこの地域「大
空町」に貢献していきたいと考えています。

町民の皆さんとともに力を合わせ、さらに魅力あ
る町へとしていきたいでしょう。



公園全体がすっぴりと雪に覆われ、春が待ち遠しい「ひがしもこと芝桜公園」(深川撮影)

中華ダイニング 七つ星

網走郡大空町女満別本通4-2-18
TEL/0152-77-3300
営業時間/11時~14時30分
17時~20時(土・日のみ)
(ラストオーダー: 19時30分)
定休日/毎週火曜日

※民間事業者からの有料広告を掲載しています。

編集後記

昨年の暮れから年明けは、ほとんど雪がなく穏やかなお正月と思ったのも束の間、1月末から2月をはじめの降雪で雪かきに追われ、久しぶりに汗をかかれたのではないのでしょうか。

今年の干支は庚子(かのえね)、「変化の多い年」と言われますが、気候変動による大きな災害が起きないことを願っています。

また、今年はおリンピックイヤーでもあります。北海道からも多くの選手が出場しますので、私も一生懸命に応援したいと思います。

もうすぐ農家では春に向けた準備が始まりますが、農作業事故には十分に気を付けていただきたいと思えます。

議会広報常任委員会

私たちが編集しました

- 議長 近藤哲雄(発行責任者)
- 委員長 深川 昇
- 副委員長 上地史隆
- 委員 田中裕之
- 委員 三條幸夫
- 委員 後藤 忍

今後ともよろしくお願いたします。



本紙は、見やすさや読みやすさを配慮したユニバーサルデザインフォントを採用しています。

議会だより「おおぞら」
第55号

発行/大空町議会
編集/議会広報常任委員会
印刷/株式会社須田製版

住所/〒099-2392 北海道網走郡大空町女満別西3条4丁目1番1号
TEL(0152)74-2111 FAX(0152)74-2191
ホームページ http://www.town.ozora.hokkaido.jp

